



## 最新政治・経済 新訂版

慶應義塾大学 非常勤講師  
高橋 朝子

### 教科書の特長と改訂のポイント

「学びやすく、わかりやすい、高校の学習と社会をつなぐ教科書」という特徴はそのまま、入試にも対応できるように資料読解を増やし、探究学習をより促すような構成に改訂した。

これまで同様、見開きで1節となっている本文は、冒頭の問いを見てポイントを把握し、図版を参照しながら読み進められるようになっている。さらに今回は、いくつかの図版に○×クイズをつけ、生徒が楽しみながら、グラフや表の読解を確認できる工夫を凝らした。

実生活や社会で役立つ話題は、「ナビ NAVI」として取り上げているが、今回はその項目を増やした。例えば、「会社をつくるとしたら」では、会社設立の準備として考えなければならないことを、「はたらく前に知っておきたいこと」では、求人票や給与明細の見方や、労働トラブルに巻き込まれたらどうするかなどを載せている。

Q & A 形式で仕組みや語句の解説をしている「なるほど Q & A」では、生徒がつまずきがちな「需要曲線・供給曲線って何？」について、図版と丁寧な解説を加えて、ページ数を増やした。

最新動向を知り、学びを深める「時事コラム」と「クローズアップ」でも、格差・貧困問題や米中対立など、今の社会で注目されている課題を取り上げ、生徒の関心を引く工夫をした。興味を持った生徒が自発的に、継続的にニュースなどをチェックしてくれるようになると嬉しい。

### 特に工夫したポイント

新訂版で大きく見直したのは、「第3編 諸課題の探究」である。まずは、探究学習に入る前に「現状や課題」を把握できるよう、教科書本節に探究学習へつながる様々な導線を確認した。次

に、探究学習の導入（第3編の冒頭）にマンダラートなどの思考ツールを用意し、探究テーマを整理・外観できるようにした。そして肝心の探究学習は、本書で設定した探究学習の13テーマ（諸課題）について、どれも視点Aと視点Bという異なる立場からアプローチできるように構成し直し、先生が授業で扱いやすく、生徒が理解しやすいようにした。二項対立の型に寄せたが、テーマによっては対立させられないものもあり、著者と編修で多くの議論が交わされた。例えば、「難民・避難民問題を考える」では、「難民を受け入れる」VS「受け入れない」という二項対立を掲げることは非現実的なので、「難民の受け入れの拡大」と「難民・避難民への支援を拡大」の2つの視点からの取組を示した。「地域における防災を考える」では、「自助・共助」と「公助」の2つの視点からの取組を示すことにした。13テーマそれぞれの最後には TRY として、発展的学習につながる段階的な問いを載せている。

### その他のポイント

授業で活用するだけでなく、生徒自身が読んで予習や復習をしたり、入試に備えたりできることは、これまでと変わらない。各節の KEYWORD を読み返すと重要事項が頭に入ることだろう。また、新訂版で、特に楽しいのは、表紙見返し6ページ分が「すごろくで学ぶ年表」になったことだ。「日本と世界のおもなできごと」が写真・イラスト入りですごろくになっており、かつ、本文参照ページも記載されているので、生徒が何度も見てみているうちに、戦後の流れが自然とわかってくるのではないだろうか。

### さいごに

生成 AI の普及によって、調べることがどんどん容易になってきている社会だが、自ら課題を見つける、そして解決方法を考えることの重要性は変わらない。この教科書が、生徒自ら政治・経済の基礎知識を身に付け、自分たちの生きている社会について考えていくツールとして役立つことを願ってやまない。